

オペラは生が^{ナマ}いちばん！

……なのではありますが、それもいろいろ、たいへんなので…

図書館上映会の大画面で
芸術の秋を楽しもう!!

10

ワーグナー作曲

歌劇「さまよえるオランダ人」

(全曲)

日時：令和5年10月23日(月)

14:00～16:20

場所：スタジオ C (山口情報芸術センター2階)

定員：100名 (入場無料)

※ 日本語字幕が付きます。

山口市立中央図書館

■登場人物：歌手

オランダ人：サイモン・エステス（バス・バリトン）
幽霊船の船長。呪われて永遠に海をさまよう。

ダーランド：マッティ・サルミネン（バス）
ノルウェー船の船長。

ゼンタ：リーズベト・バルズレフ（ソプラノ）
ダーランドの娘。

エリック：ローベルト・シュンク（テノール）
狩人でゼンタの恋人。

マリー：アニー・シュレム（メゾ・ソプラノ）
ゼンタの乳母。

舵手：グレアム・クラーク（テノール）

演奏：バイロイト祝祭合唱団と特別合唱団
バイロイト祝祭管弦楽団

指揮：ヴァルデマール・ネルソン

演出：ハリー・クプファー

映像監督：ブライアン・ラージ

芸術総監督：ヴォルフガング・ワーグナー

制作：1985年 バイロイト音楽祭

■リヒャルト・ワーグナー（1813～1883）

ドイツの作曲家。多くの歌劇で作曲者自ら台本の執筆も行いました。
作品に「ローエングリン」、「タンホイザー」、「トリスタンとイゾルデ」
「ニーベルングの指環」など。

■構成

序曲

第1幕 ノルウェーの海岸 （第1場、第2場）

第2幕 ダーラントの家の大きな部屋 （第1場、第2場）

第3幕 夜の海岸 （第1場、第2場）

■物語

ノルウェー船が入り江に停泊して嵐の静まるのを待っていました。そこに現れたもう一つの船（実は幽霊船）。船長はオランダ人と名乗りました。オランダ人の宝石に目のくらんだダーラント船長は、娘のゼンタをオランダ人の妻にしようと考えました。

家ではゼンタがさまよえるオランダ人の伝説とその肖像画に夢中になっていました。オランダ人は永遠に海をさまよう運命を負わされていますが、7年に一度陸に上がることが許され、彼に誠実な乙女が現れると救われるといいます。ゼンタは自分がその乙女になるのだと夢見ています。そこへ、父のダーラントが客を連れて帰ってきました。

■クプファーの演出

今回上映する映像は、オペラ演出家のクプファーがこの物語の全体をゼンタの妄想として描いたもので、初めて上演された当時は画期的な舞台でした。その場面にはいないはずのゼンタが舞台の左の高い位置に陣取り、父親とオランダ人のやりとりを一部始終見ているのは、全てがゼンタの妄想だからです。現在ではこれも古典的な解釈の一つと見られるようになり、同様の演出はほかにもあります。

■「バイロイト音楽祭（祝祭）」

ドイツの地方都市バイロイトで、毎年7月から8月にかけて、専らワーグナーの歌劇・楽劇を上演する音楽祭です。上演するのに何夜もかかる楽劇「ニーベルングの指環」のため、ワーグナーがルートヴィッヒ2世の援助を受け、専用の劇場を用意して音楽祭を創設しました。現在もワーグナーの子孫によって運営されています。

■あわせて読みたい図書館の本

『絶対行きたい！世界の音楽祭』

田中 良幸・著 ヤマハミュージックメディア (760 タヨ)

◇ 作曲者について

『ワーグナー 祝祭の魔術師』

フィリップ・ゴドフロワ・著 創元社 (762 ハヒ)

『完全なるワーグナー主義者』

バーナード・ショー・著 新書館 (762 ハヒ)

『ワーグナーのすべて』

堀内 修・著 平凡社 (762 ハヒ)

『ワーグナー紀行』

塩山 千仞・著 春秋社 (762 ハヒ)

『ワーグナーとは何か』

ブライアン・マギー・著 音楽之友社 (762 ハヒ)

『ヴァーグナー大事典』

バリー・ミリントン・原著監修 平凡社 (R762 ハハ)

◇ワーグナーのオペラが登場する小説

『ジークフリートの剣』

深水 黎一郎・著 講談社 (Bナヨ)

◇ 聴き比べ CD

『歌劇 さまよえるオランダ人』(A161 ワ)